

第6回 大谷・小鹿地区まちづくり検討会議

令和5年度の進め方

令和5年6月29日



大谷・小鹿地区まちづくり検討会議「大谷・小鹿地区将来ビジョン(素案)」

大谷・小鹿地区の現状

地区特性	強み	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・自治会、企業、学生、子ども等、既存で多様な主体が存在(NPO、学生団体、社会福祉協議会、小学校等) ・大学生や子ども達を対象にした既存のまちづくり活動やイベントが行われている ・地区の歴史が深く、行事、地域資源等が豊富 ・SICに隣接しており、広域での来訪者が見込まれる ・駿河区役所等、比較的近隣に市街地がある ・周辺に観光資源が点在(日本平、久能山東照宮等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・SICを活用した自動車の利便性が高い ・幹線道路に囲まれた地区である ・歩行者や自転車にとって比較的良好な移動環境である ・地形が平坦で徒歩移動が容易 ・日本平・久能山等、周辺に観光資源が点在 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・ウォーキング、ランニング、スポーツに適したスケールメリットがある ・地形が平坦で、歩行・自転車による移動に適している ・周辺に山、海、川、緑等、自然観光に囲まれている ・海岸や富士山等の眺望が良い場所がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・地域資源(農地、河川、緑地)を活用したクリーンエネルギーの創出が期待できる(バイオマス、省水力発電等) ・恩田原・片山地区が「脱炭素先行地域」に指定されている
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・現状で、日常的な交流の機会、場所がない ・地域資源の発信、有効活用が十分に行われていない ・東名高速道路による南北地区の物理的な分断 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・鉄道駅が遠い(静岡駅3.6km、東静岡駅3.1km) ・土地区画整理内は、現状でバスの空白地区である ・近・中距離の移動は、自動車への依存度(分担率)が高い ・開発に伴う自動車交通量の増加による周辺道路の渋滞・事故の増加や駐車場不足への懸念 ・バスが静岡駅発着の路線が多く、雨の日に混雑する ・シェアサイクル需要が高まり、供給が不足する 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・ウォーキングコースやランニングコースが設定されていない ・目的地となる施設が集積している鉄道駅周辺の徒歩圏外に位置し、移動手段として車に依存してしまう傾向にある ・静岡市全体で全国平均に比べて市民の歩数が少なく、歩行する習慣が他都市に比べて定着していない ・近隣に総合病院がない 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・SICからの自動車の流入が多く、環境負荷が大きい ・公共交通が不便であり、自動車での移動に依存しがちであり、環境負荷が大きい ・地区周辺には高齢者が多く、円滑な非難が困難
社会的背景	機会	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル技術の進展 ○脱炭素社会の実現に向けた取組の加速 ○価値観・ライフスタイルの多様化 ○各分野のトレンド 	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル技術の進展 ○脱炭素社会の実現に向けた取組の加速 ○価値観・ライフスタイルの多様化 ○各分野のトレンド 	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル技術の進展 ○脱炭素社会の実現に向けた取組の加速 ○価値観・ライフスタイルの多様化 ○各分野のトレンド 	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル技術の進展 ○脱炭素社会の実現に向けた取組の加速 ○価値観・ライフスタイルの多様化 ○各分野のトレンド
	脅威	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少・少子高齢化 ○激甚化する自然災害の懸念 ○感染症の流行 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少・少子高齢化 ○激甚化する自然災害の懸念 ○感染症の流行 ○価値化・ライフスタイルの多様化 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少・少子高齢化 ○激甚化する自然災害の懸念 ○感染症の流行 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少・少子高齢化 ○激甚化する自然災害の懸念 ○感染症の流行 ○各分野のトレンド

まちづくりの4つの視点	コミュニティ (暮らしの充実)	モビリティ (快適な移動環境)	ウェルネス (健康長寿の促進)	エネルギー (クリーン×安心)
	<p>まちに賑わいを生み、地域への愛着を高める</p>	<p>行きたい場所に快適に移動できる</p>	<p>日常生活の中で健康を維持できる</p>	<p>暮らしの満足度を下げずに省CO2、省エネを実現する</p>

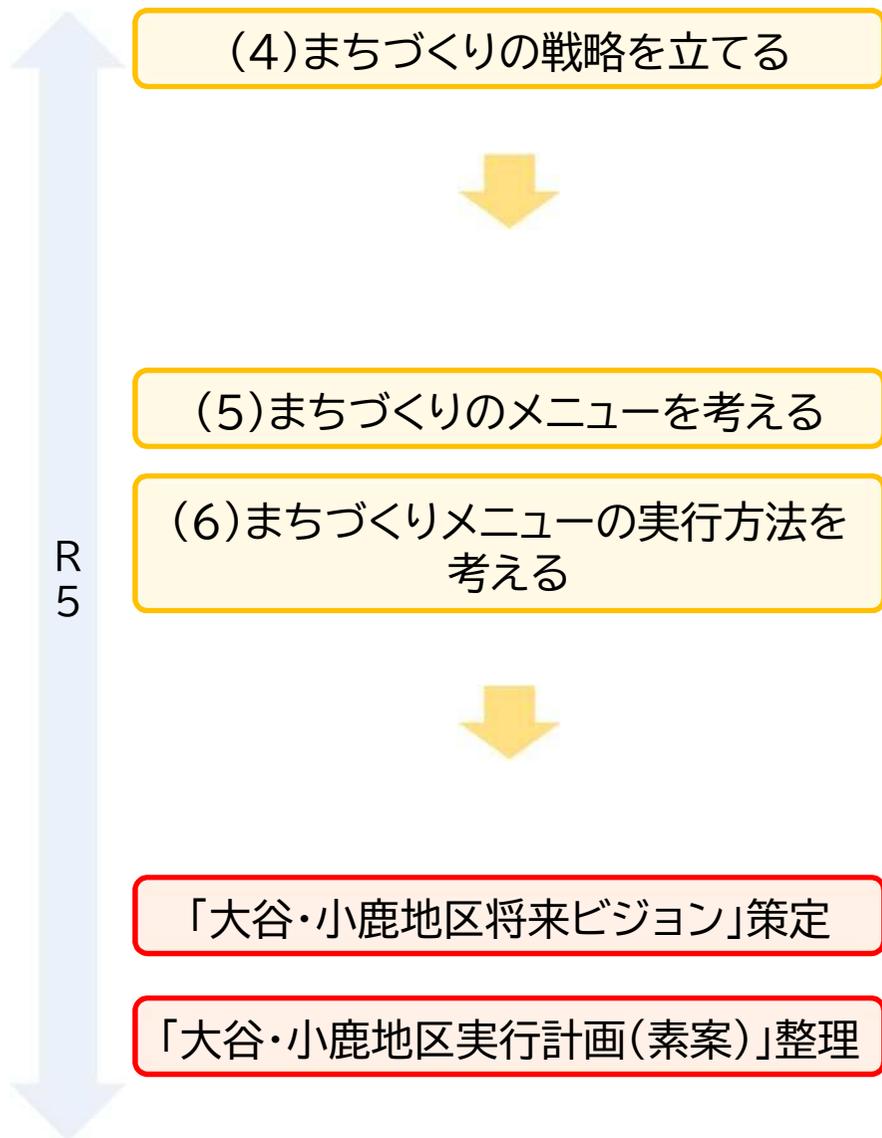
課題	(暫定)	(暫定)	(暫定)	(暫定)
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 交流拠点となる場の創出 2. 交流プラットフォームの構築 3. 多様な主体の交流機会の創出(日常) 4. 多様な主体の交流機会の創出(イベント) 5. 地域資源の有効活用・継承 6. 新たな地域資源の発掘 7. 安全・便利・快適な生活環境の実現 8. 新しい日常への適応 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 移動の安全性・快適性向上(歩行者・自転車) 2. 近距離移動の利便性向上 3. 公共交通の利便性向上 4. 多様な移動手段の効果的な活用 5. 自動車利用の適正化 6. 自動運転技術への対応 7. 地区周辺移動の把握 8. 物流の効率化 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 移動の安全性・快適性向上(歩行者・自転車) 2. 歩き、健康維持の動機づくり 3. 目的地となる魅力あるまちづくり 4. 歩き、健康に関する意識・意欲向上 5. 歩き、健康維持を通じた交流拡大 6. 医療・福祉との連携 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脱炭素社会実現への取組み 2. 既存の自然資源の保全・活用 3. 地区内での電力の自給自足 4. 災害対応力の強化 5. 個人単位での電力消費の低減(省エネ) 6. 自動車以外の移動手段の充実

まちづくり方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. (積極攻勢方針) 2. (改善方針・弱点強化) 3. (差別化方針) 4. (影響低減・防衛) 	<p>先進技術と自然・歴史が紡がれるエコ・ウェルネスタウン(ハード施策・域外連携施策)</p> <p>人・エネルギー・場所をつなぐマルチハブ(ハード施策・域内連携施策)</p> <p>多様な人々が住み続けられる安心できるまち(ソフト施策・域外連携施策)</p> <p>『まち』のみんなで取り組むコンパクトな活動づくり(ソフト施策・域内連携施策)</p>
---------	---	--

あるべき姿 まちづくりの戦略 まちづくりのメニュー ...	次年度以降検討
--	---------

令和5年度のスケジュール

○検討・議論の流れ(R5年度)



2023.6.29

第6回検討会議

- ・ 取組の方針案への意見交換
- ・ 検討の流れの共有

2023.9中旬頃

第7回検討会議



- ・ コンセプト実現のためのまちづくりメニュー検討のためのワークショップ
- 【コミュニティ・ウェルネス】

分科会の開催



- ・ コンセプト実現のためのまちづくりメニュー検討のためのワークショップ
- 【エネルギー・モビリティ】

2023.12中旬頃

第8回検討会議

- ・ 将来ビジョン（案）および実行計画（素案）の中間報告

分科会の開催

- ・ 社会実験の企画検討

2024.3初旬頃

第9回検討会議

- ・ 将来ビジョン（案）および実行計画（素案）の共有
- ・ ビジョン周知方法に関する意見交換
- ・ 来年度以降の取組方針の共有